

南沢支流カの沢右俣、中俣、左俣

1988年7月23日

山本不動尊から徒歩50分でカの沢(仮称)出合。6:45。カの沢は、10mの滝をかけて南沢本流に合流している。出合の滝は直登する。花崗岩の岩は、ホールド豊富で、快適に直登できた。このあと花崗岩のナメが続く。沢の規模は小さいが、フリクションがよくきいて、途中の小滝も楽に越してゆける。5mのナメ滝を直登すると、水量が急減し、もう先が見えてきた感じ。

沢はここで三つに分かれる。まずは右俣へ。ナメを過ぎると5m、3mと小滝が二つ続く。直登して上に出ると、水の流れは消え、落葉のいっぱい積もった瘤みにすぎなくなってしまった。

中俣も小滝が三つ出てきただけ。中の3mだけが、ちょっとびり直登気分を味わえた。最後までつめ、四ツ沢のピークのやや南方の尾根に出る。尾根には古い踏跡があったが、今では使われていないようであった。

尾根上にある小さな岩峰の北側から下降開始。急斜面の樹林帯を下る。下り付いた所が左俣の源頭、小さな湧水地点であった。そこからしばらくは、落葉の厚く積もった中を進む。花崗岩の岩床が見えてくると、ようやくひとすじの水流となる。ここから左俣は、途中小滝をまじえながら急速に高度を下げてゆくが、たいした変化もない今まで終了となった。

(記・

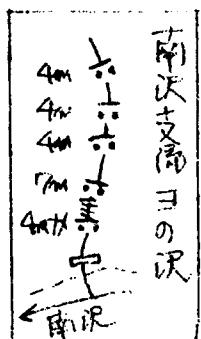
[タイム] 山本不動尊(5:50)→カの沢出合(6:45)→左俣出合(6:55)→右俣終了(7:05)→中俣開始(7:10)→中俣終了・尾根(7:25)→左俣下降開始(7:45)→左俣下降終了(7:55)

南沢支流ヨの沢

1988年5月15日

ヨの沢(仮称)はチョロチョロとした流れで南沢本流に合流している。小さな沢であり期待していなかったが、中に踏み込むと5mクラスの滝が続き、しかも最初のナメ滝以外はほぼ垂直の滝で、短いが結構スリル感も味わえる沢であった。

10:50遊行開始。出合に小さな砂防ダムがあり、それを越えて先に進むと小滝



が出てくる。7mの滝を直登すると、水の流れは乏しくなり沢は細くなるが、小滝は続く。快適に登ってゆく。最後の4mは下部を直登したが、上部はコケですべり右岸に逃げる。

15分程で遡行終了。帰路はすべての滝の右岸または左岸の急斜面を捲くようにして下り、出合に戻った。

[タイム] ヨの沢出合(10:50)→ヨの沢終了(11:05)→山本不動尊(12:20)

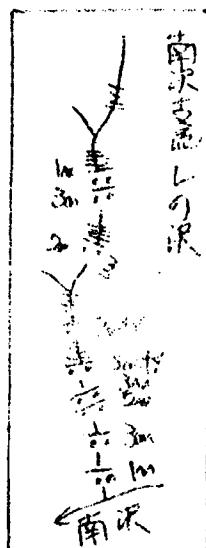
南沢支流レの沢

1988年5月15日

レの沢(仮称)も、全体的に見て平凡な沢であった。しかし、このあたりの支沢の例にもれず、ナメ状の小滝がポンポン。花崗岩の岩はフリクションがよくきいて、気分よい源流歩きであった。カエルにとって、今は婚鳴シーズンなのだろうか。姿は見せないが、落葉の下で何匹もがすずやかな声をたてていた。

水の流れもほとんどなくなった。沢は相変わらず深いミゾ状だが、落葉で埋まるようになる。水の流れがすっかりなくなった所で引き返す。

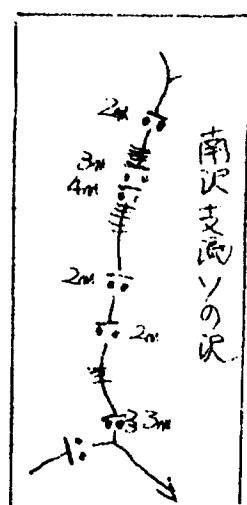
[タイム] レの沢出合(10:05)→終了(10:20)



南沢支流ソの沢

1988年5月15日

9:00ソの沢(仮称)出合。出合は両岸が岩場となり、小滝をかけてなかなかの雰囲気。先を期待して入り込んだが、すぐ平凡となった。それでも2m、3mといった小滝がポンポンと出てくる。ここも花崗岩の沢で、小滝はいずれもナメ状であり、楽に直登できた。せせらぎの音を聞きながらゆっくりと源流歩きを楽しむ。30分程で源頭となった。



[タイム] ソの沢出合(9:00)→ソの沢終了(9:30)